

## 10月例会「紅葉・ドングリを食べる探検」報告

令和元年11月17日(日)午前10時～午後0時30分。立田山野外保育センター雑草の森。参加者81名(うち会員17名)。

先週から急に朝夕は冷え込むようになり、センターのメタセコイヤやイチョウの葉も色づき始めました。この日も寒い朝で「始まりの会」は室内ですること。

藤井会長と緒方センター長の挨拶の後、最初にみんなで紙芝居「どんぐりのお話」「縄文人とどんぐり」を見て、ドングリについて勉強をします。「立田山には10種近くのドングリがある」「食べておいしいのはマテバシイ」「ドングリを食べるのはドングリ虫。イノシシやネズミ、タヌキ、シカ、サルも食べる」「縄文時代、ドングリは秋から冬にかけて主食だった」といったお話でしたが、子ども達は真剣に聞いてくれました。

いよいよドングリ拾いに出発。参加者は3班に分かれ、自然観察指導員の案内でセンター前庭のナラガシワ、アラカシ、林の中のコジイ、クヌギなどを拾いながら夏の森を目指します。夏の森のマテバシイの木の下にドングリ(マテバシイ)を発見。指導員から「これが食べておいしいマテバシイ」「殻が割れ中身のないドングリはイノシシが食べた跡」と聞いて、子ども達は興味津々で興奮気味。ビニール袋はドングリでいっぱいになります。

一方、センターでは女性スタッフ2人、センター指導員の先生、参加者の中からお手伝いを申し出ていただいたお母さん3人が小麦粉や豆乳などを材料に「探検隊特製のパン生地」づくりに汗を流し、緒方センター長とお手伝いを申し出ていただいたお父さんがドラム缶コンロに炭火を起こして子ども達の帰りを待ちます。

子ども達が歓声を上げながらセンターに帰ってきました。拾ってきたドングリを水につけ、沈んだドングリだけを選びます。浮いたドングリは、中身が小さいか、ドングリ虫が食べたようです。子ども達は選別がすんだドングリを持ってセンター中庭に集合です。

さあお待ちかねのドングリパン焼きの始まりです。スタッフが「選別が済んだマテバシイ5個を持って来てください。あらかじめ茹でたマテバシイ5個と交換します」と呼びかけると子ども達は一列に並んで次々に交換。「3個しか拾ってこなかった」と心配顔の子どももいましたが5個貰えて嬉しそうです。茹でたマテバシイは、金槌を貸してもらい、殻を割り、実をとり出します。

次は「パン生地」です。一列に並んで次々に「パン生地」と「パン焼き棒」を受け取ります。パン生地を棒状に伸ばし、パン焼き棒に巻きつけ、殻をむいたマテバシイの実をトッピング。ドラム缶コンロの炭火で15分ほど焼くと美味しそうな香りがして出来上がり。大人も子どもも熱々のドングリパンを頬張りながら「ドングリって本当に食べられるんだ」「ドングリパンおいしい」と大感激。「先生、ドングリパンおいしかった。ありがとうございます」とわざわざ報告に来てくれた男の子がいて、スタッフも大喜びです。

あっという間に楽しい時間が過ぎ、午後0時30分、ケガもヤケドも事故もなく、11月例会を無事に終わることができました。

格別のご配慮をいただいたセンター職員の皆さん、臨時スタッフの鐘ヶ江君とお父さん、パン生地づくりをお手伝いいただいた参加者の木村さん、吉崎さん、小林さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



